

令和元年12月定例会市議会市政報告

令和元年第6回釧路市議会12月定例会の開会にあたり、9月定例会市議会以降の市政の概要についてご報告申し上げます。

最初の報告は、「**バス路線網の再編**」についてであります。

本年9月に国土交通大臣の認定を受けました「釧路市地域公共交通再編実施計画」に基づき、去る10月1日、交通事業者等と連携のもと、バス路線網の再編を実施いたしました。

本年度実施するステップ1につきまして、釧路地域では、イオン釧路昭和店を乗換拠点として4路線の再編を行うとともに、イオン株式会社との地域連携協定に基づき、同店内にバスの運行状況を表示するデジタルサイネージを設置するなど、待合環境の整備を行ったところであります。

また、阿寒地域では、これまで運行してきた仁々志別線について、事前予約制のデマンド型乗合タクシーへの転換を行うとともに、音別地域では、コミュニティバスとして「チャンベツ・ムリ線」、「直別・尺別線」の2系統のデマンド型の運行を開始し、生活交通の利便性確保を図ったところであります。

「地域公共交通再編実施計画」では、2026年度を目標年度として、今後もステップ2、ステップ3と段階的に乗換拠点の整備と路線再編を行っていくこととしており、引き続き交通事業者等とともに取り組んでまいりたいと考えております。

報告の第2は、「**第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定**」についてであります。

第2期総合戦略の策定に向け、これまで、第1期総合戦略の検証を行ったほか、庁内組織の「釧路市まち・ひと・しごと創生推進本部会議」などを開催し、策定作業を進めてまいりました。

また、外部委員で構成される「釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議」を4回開催したほか、釧路・阿寒・音別の各地域協議会におきまして、意見交換をさせていただいたところであります。

戦略の基本目標は、「地域の魅力を生かして、経済・産業・交流人口・関係人口の拡大を目指す」、「雇用・就業機会の創出と地域を支える人材育成・人材確保を図る」、「地域が支え、安心して働ける環境をつくる」、「持続可能なまちをつくる」の4つとし、本市の最上位の指針である「釧路市まちづくり基本構想」と整合を図りながら施策を体系化するものであります。

今後は、議会でのご議論やパブリックコメントを踏まえ、総合戦略（案）として取りまとめ、本年度内の成案化を目指してまいりたいと考えております。

報告の第3は、「**第2期釧路市子ども・子育て支援事業計画の策定**」についてであります。

「子ども・子育て支援法」に基づき、2015年度に策定した第1期計画が本年度末をもって終了することから、来年度からの5年間を新たな計画期間として策定するものであります。

第2期計画に広く市民のご意見を反映させるため、昨年度、児童の保護者を対象としたニーズ調査を実施したほか、本年5月から11月の間には、学識経験者や子育て中の保護者等で構成する「釧路市子ども・子育て会議」よりご意見をいただいております。

第2期計画の基本理念は、第1期計画を踏襲し、「生まれる喜び、はぐくむ喜び、寄り添う喜び ～それぞれの笑顔が輝くまち・釧路～」とし、子育て世代と子どもたちが、このまちで明るい未来を築くことができるよう、全ての市民が、子育てを支援する担い手として支えていくことができるまちづくりを目指すものであります。

この基本理念のもと、5つの基本目標とその実現に向けた「施策の展開」、「教育・保育の内容と供給体制」について記載するものであります。

今後は、議会でのご議論やパブリックコメントを踏まえ、計画（案）として取りまとめ、本年度内の成案化を目指してまいりたいと考えております。

報告の第4は、「**共生社会ホストタウンの登録**」についてであります。

国におきましては、パラリンピアンとの交流を契機とした共生社会の実現に向けた取り組みを促進するため、「心のバリアフリーなどの取り組み」や「相手国のパラリンピアンと市民との交流」を行うホストタウンを「共生社会ホストタウン」として登録し、地域主導の共生社会の実現を加速するとともに、パラリンピックに向けた機運を全国に波及させることとしております。

本市では、ホストタウン登録後、ベトナム・パラリンピック選手団と市民約70名が参加した競技体験会の実施や、朝陽小学校での子供たちとの交流会の開催など、パラリンピアンとの交流を進めてきたところであり、これらの取り組みが認められ、去る10月20日、共生社会ホストタウンサミットの間において、橋本聖子五輪担当大臣より、共生社会ホストタウン登録証が交付されたところであります。

現在、全国では、37の自治体が登録されており、道内では、釧路市が滝川市とともに、最初の登録となったものであります。

今後につきましては、来年8月に開催される東京パラリンピック大会のベトナム選手団の直前合宿の受け入れや、大会後のメダル獲得選手との交流会の実施などを通して、障がいがある人もない人も共に支えあい、地域で安心して暮らすことのできる「社会的包摂～ソーシャル・インクルージョン」の理念のもと、共生社会の実現に取り組んでまいります。

報告の第5は「**台湾における観光PRの実施**」についてであります。

去る10月6日、台北市立動物園にて開催されました、新タンチョウ舎の完成記念式および

び天然マリモの貸与式にあわせ、訪日外国人旅行者の誘客促進を目的とした、釧路市の観光PRを実施いたしました。

会場内に開設した特設ブースでは、「QRコード」を活用し、ロストカムイなど最新観光情報を発信するサイトへの誘導を行ったほか、市内観光施設が入場無料となる「釧路フリーパス」の配布、ブースを訪れた方々へのアンケート調査などを実施いたしました。

また、釧路市の認知度向上のため、本年9月にサイクリングツアーで釧路を訪れて頂いたインフルエンサー及び地元愛好者の皆様とともに、サイクリングを通じた相互交流も行ったところであります。

翌日には、民間事業者とともに、地元旅行会社との情報交換、旅行商品造成の誘発を目的としたPR活動を行ってきたところであり、今後とも、関係機関や民間事業者との連携のもと、取り組んでまいりたいと考えております。

報告の第6は、「岡山市への友好親善交流訪問団の派遣」についてであります。

観光交流都市であります岡山市へ、釧路市から公式訪問団9名および市民訪問団15名を、11月4日から7日までの日程で、派遣いたしました。

私と議長、市議会姉妹都市議員連盟、観光協会で構成する公式訪問団は、岡山市長をはじめ、商工会議所や航空会社、旅行会社などを表敬訪問したほか、市民訪問団とともに岡山城で開かれまして歓迎レセプションへ参加してまいりました。

今回の訪問にあわせて、11月5日・6日に、「イオンモール岡山」で、「釧路フェア」を開催いただき、物産販売と観光PRをさせていただいたところであり、アイヌ民謡を唄う活動をしている「カピウ&アパッポ」によるアイヌ文化の紹介や、歌や音楽のステージショーのほか、マーメイドくしろによる物産・観光PRを行ったところであります。

両市の友好関係を一層深めるため、今後もこのような交流を継続してまいりたいと考えております。

報告の第7は「工事発注状況」についてであります。

本年度の建設事業の発注予定額は、約136億6千万円となっており、11月30日現在における発注済額は約115億8千万円であり、発注率は、84.8%となっております。

このうち、地元企業への発注は、金額で約103億7千万円、率では89.6%となっております。

主な建設事業別の発注率につきましては、道路事業が約92%、上水道事業で約39%、下水道事業で約96%、住宅建設事業は約99%の状況となっております。

以上で、市政報告を終わります。